# 第 13 回総合情報メディアセンターシンポジウム 2016

## 「大学における教育研究環境の変革と情報系センターのこれから」開催報告

東京農工大学では、高機能化が著しい個人端末の利用を前提にした BYOD（Bring Your Own Device）の考えをベースとする教育研究環境の構築が本学の将来構想の前提と考え、2016 年 4 月から全学の BYOD 化を実施しました。先行して 2016 年 2 月に更新の電子計算機システムでは、ほぼすべてのサーバーとシステムをプライベートクラウド化しました。主に情報基礎教育で利用される共通の端末環境は、仮想デスクトップ化し、HTML5 対応ブラウザで利用可能なこれまでに類をみないシステムとなり、OS やブラウザに依存しない環境での動作、授業利用のための専用予約システムによる端末の利用の高効率化を実現しました。さらに、学内ネットワーク環境の拡充を図り、5GHz 帯を中核とした無線 LAN アクセス環境を提供し、従来の PC 教室に依存せずに同等の統合環境を BYOD で実現することで、将来の教育研究システムを見据えた仕組みが今スタートしました。

総合情報メディアセンターでは、このような教育研究環境の変化を視点にとらえて 11 月 25 日(金)13:30～17:30 に「大学における教育研究環境の変革と情報系センターのこれから」と題した第 13 回総合情報メディアセンターシンポジウム 2016 をエリプスにて開催しました。本シンポジウムは、教育研究環境に対する取り組みを本学のみならずさまざまな側面から講演により、現在の状況とこのようなシステムを管轄する情報系センターのこれからの姿を概観頂きました。基調講演として九州大学名誉教授（情報基盤研究開発センター特任教授）の藤村先生より「九州大学における学生 PC 必携化の取り組みとその後について」を御講演頂きました。続いて、本学三島先生より「本学の仮想端末室に見る教育研究システムの今後とセンターの立ち位置」、さらに青山学院大学の大足先生より「青山学院大学における情報メディアセンターの在り方と展望」、お茶の水女子大学の桑名先生より「お茶大アクティブ・ラーニングスタジオの設置と活用」を御講演頂きました。次に、企業の立場と視点からシスコシステムズ見松氏より「国内外の事例から見るデジタルキャンパスへの挑戦」、ユニアデックス八巻氏より「授業予約して使えるクラウド型パソコン教室サービス」と題してそれぞれ御講演頂きました。

情報系センターが提供する教育研究サービスは、従来の PC 教室（設備ベース）や各種サービス（ソフトウェアベース）の見直しや、ラーニングコモンズ、PBL（Project Based Learning）、アクティブラーニングなどによる変革が始まっています。本シンポジウムでは、これらの現在とこれからの姿を異なる立場から話題提供し、情報系センターの今後の在り方について意見交換が行われました。さらにシンポジウム開催終了後、情報交換会を開催し、深く議論意見交換を行いました。なお、シンポジウム出席者数は、47 名（本学 14 名、他大学 14 名、企業等 19 名）。情報交換会出席者は、28 名（本学 11 名、他大学 8 名、企業等 9 名）でした。

[司会] 萩原氏

[開催挨拶] 金子氏

[講演 1] 藤村氏

[講演 2] 三島氏

[講演 3] 大足氏

[講演 4] 桑名氏

[講演 5] 見松氏

[講演 6] 八巻氏

[会場] シンポジウム風景

[情報交換会] 纐纈理事

[情報交換会] 須田 CIO 補佐

（以上）